

ICANOF「68-72*世界革命展」併設「全国フォーラム2008」（助成：「元気な八戸づくり」協働事業）

ルポ 《真夏の夜のユメのツツキを!》

豊島重之（ICANOFキュレーター・八戸在住）



▲「全国フォーラム」討議の様子（7月26日・八戸市美術館）

(1)7月24日の早朝（深更）M6.8の地震の祝砲を浴びて開幕したICANOF第8企画展「68-72*世界革命展」は、32日間の長丁場を乗り切って8月24日、毎年恒例のICANOF代表米内安芸による写真ワークショップでもって盛況裡に閉幕した。1968〜72年の激震をまさしく召喚し、それが現在と地続きの切迫した徴候であることを世界に向けて発信する、真夏の夜のユメにも似た痛快なイメージの祝祭であった。

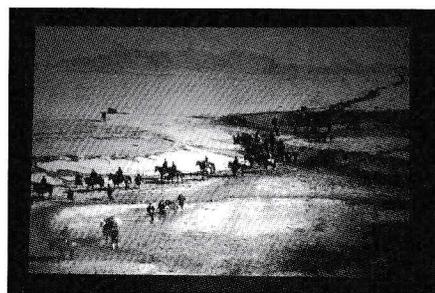
(2)会場の八戸市美術館は、全館が40年前の動乱の鬼気に包まれた。1Fは沖繩の写真家比嘉豊光「沖繩闘争」80点と八戸の建築家月館敏栄「仙台闘争」120点がニラミあう。2Fは新宿の写真家北島敬三（木村伊兵衛賞・伊奈信男賞）「USSR*1991」70点の鬼気迫る展示。3Fは伊藤二子の鋭利な油彩造形10点と米内安芸「TOKYO月面着陸」写真12点ほか、金子遊の映像作品「Baghdad*1999」と批評家倉石信乃が初挑戦した映像作品



▲伊藤二子「68-72*交戦する現在」展示風景

(3)八戸市「元気な八戸づくり」協働事業助成による同展併設「全国フォーラム2008」は、7月25〜27日の三日間、全国各地からの論客30名に市民見民30名を加えて白熱した討議を重ねた。とりわけ「日本再発見の真相」を主題とした26日の討議には八戸市長も参席し、引き続き行われたパネーティの冒頭、なんと30分も持論を展開して満場の驚嘆をさらった。要約すれば、この八戸地域は平安時代の史書「延喜式」に「恐るべき空所」として初登場する、それを敷衍すれば、八戸こそ「世界革命」の発祥地だと言えなくもない。少なくとも「世界革命展」と白熱したフォーラムがこの地で実現したことに、八戸の未来は勇気づけられた。

(4)全国フォーラムの枠で組まれた「KWANKOバス・クルーズ」



▲倉石信乃「Tsukai*45-72」常設上映より。（いずれも撮影米内安芸）

Friday Amusement Negative Shop
9月のFANS (761~764回)
【一人芝居二本立て】
 「こころのまち 第一夜」 「ぶっしゅ!」
 脚本：加藤健太郎 脚本：沼沢豊起
 (劇団やませ) (劇団INTELVISTA)
 出演：田中勉 出演：田中勉
 この公演は、次の日程で上演予定です。

開演	9/5	9/6	9/12	9/13	9/19	9/20
14:00	●	●	●	●	●	●
19:30	●	●	●	●	●	●

 ※26、27日は休演予定ですが、お問い合わせください。

http://www.hi-net.ne.jp/icanof

高沢 090-2998-0224

mol@f667-dj.com

「Tsukai*45-72」、さらに美術家平倉圭やICANOFメンバーによる企み深いポスター作品とが、階を隔てて切り結ぶ。

(5)「世界革命展」は閉幕したが、そのユメのツツキが11月7〜9日、月島テンポラリーで見られることになった。モレキュラー東京公演の3ステージに3回ともアフタートーク（鶴飼哲・桂秀美・瀬尾育生・鴻英良ほか）が併設され、八戸で持ちこされたトーク主題がさらに糾問されるに違いない。

演劇空間
スペースベン

八戸市柏崎1-11-8
 ☎ 0178-43-9876
 FAX 050-3588-8350
 ☎ 080-6025-0990

HP <http://spaceben.com/>

Eメール owner@spaceben.com

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金／一般400円 高校生以下100円（当日100円増）
 ※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスでご確認下さい。

9月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ「舞台」

あの頃の舞台……………正部家種康
 舞台と私……………附田愛美
 最後のコンサート……………小川芳勇樹
 出たがり娘……………大窪亜紀子
 録かづき……………長谷川直行
 ラインダンス……………館光



●今月のインタビュー

Jazz&Blues cafe Alberta albertA 店主

佐々木礼子さん(46歳)に聞く

読む楽しみ **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社
 八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
 TEL・FAX 0178-44-6636